

経営比較分析表（令和4年度決算）

茨城県 結城市

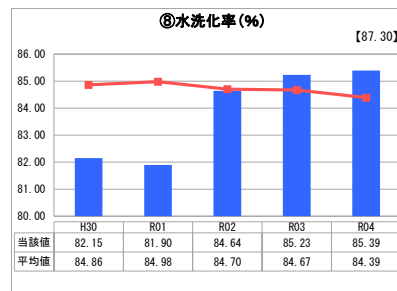
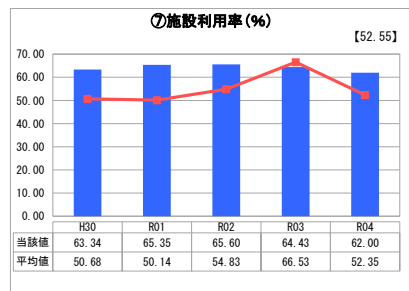
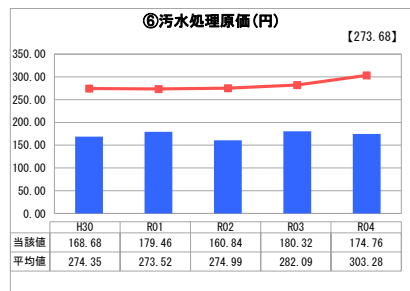
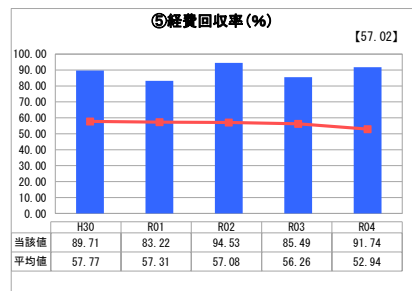
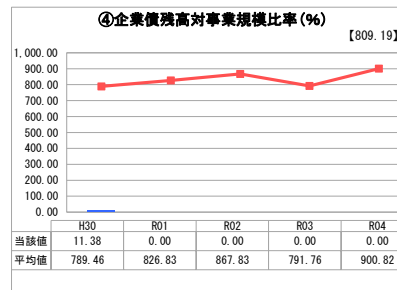
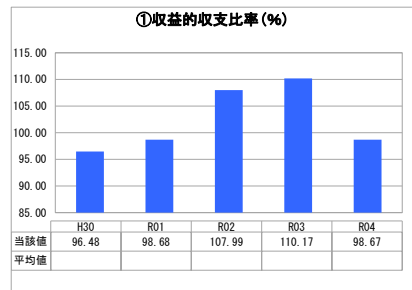
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	5.16	100.00	4,730

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
50,349	65.76	765.65
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,587	1.41	1,834.75

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率が98.67%と減少した。要因は主に補助金の減少が考えられ、使用料金の割合が低く、一般会計からの繰入金に依存している状況であるためである。使用料についても、人口減少に伴い収益の増が見込めなくなることを予想されるため、使用料水準を詳細にしながら経営改善を図るとともに、経常的な維持管理費の削減に努めていく必要がある。

④企業債残高対事業規模比率は、類似団体より低い状況である。R3年度に矢野地区が、またR12年度に江川南地区がそれぞれ供用開始20年を迎えるが、大規模な改修等を行うとなった場合、再び比率が上がることとなる。

⑤経費回収率は類似団体平均値よりも上回っているが、100%未満であるため使用料で回収すべき経費を一般会計繰入金等の使用料以外の収入により賄っている状況であり、経費回収率の増に努めることが重要である。

⑥汚水処理原価は類似団体と比較して低く、効率的な汚水処理が行われている状況である。

⑦施設利用率は類似団体より高い状態で、かつ施設に新規加入を受け入れる余力がある。

⑧水洗化率は類似団体を上回る結果となった。効率的な汚水処理が行われ施設にも余裕があるため、引続き接続率の向上に向けて周知していく必要がある。

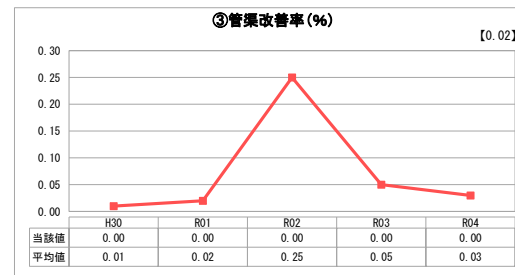
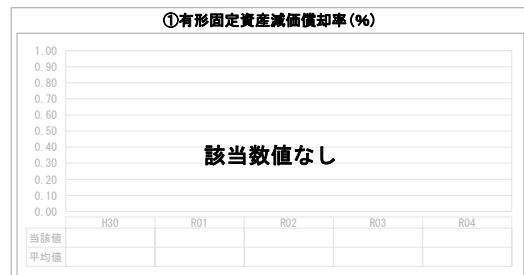
今後、地方債償還金の増加が見込まれるので、使用料収入の確保に努め経営改善を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

③管渠の改善は、H29年度に大戦防・武井南地区において行った。改善(更新・改良・修繕)管渠延長は56m、下水道布設延長は7,328mで管渠改善率は0.76%である。

今年度は江川南地区が機能診断を行うが、大戦防・武井南地区については、1回目の機能診断を行ってから10年経過するので来年度再度行う予定である。今後、それに伴う最速整備構想により計画的に対応していく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

経営の健全性、効率性で分析のとおり、現状では単年度の収支は赤字である。経費回収率は100%未満のため使用料で回収すべき経費が使用料以外の収入により賄われている状況である。機能診断や最速整備構想によって、改修や修繕の必要が出てくる。そのために経費削減や適正な使用料確保による財源の確保を行わなければならない。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。